

自然環境体験学習支援活動の紹介

自然環境体験学習受入れのきっかけ



以前から里山グループの活動として作ってこられたオチバンク(落ち葉の堆肥化場所)に、落ち葉やチップを補充。



この頃はカブトムシの知識も浅く、この中から時々見つかる幼虫に対しても関心は低く、なんとなく見過ごしていた。



ところがある時、わんさかとカブトムシの成虫たちが…。どうやら飛び立つ直前の状態だった様子にびっくり。



【自然環境体験学習受入れ初期段階】

そこで、この里山に自生しているカブトムシを子どもたちにも見せてやりたいと思い検討の結果、花実の森を「自然環境体験学習の柱」と位置づけ。“カブトムシ生育観察会”として整備していくことになった。

観察小屋建設以前…林内の数か所に簡易型の生育場所づくり開始



開始当初は、里山内のいくつかの場所にチップの山をつくり、手探し状態の産卵場所づくりを始める。





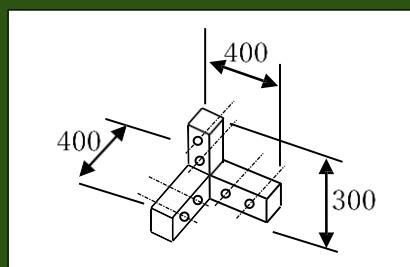
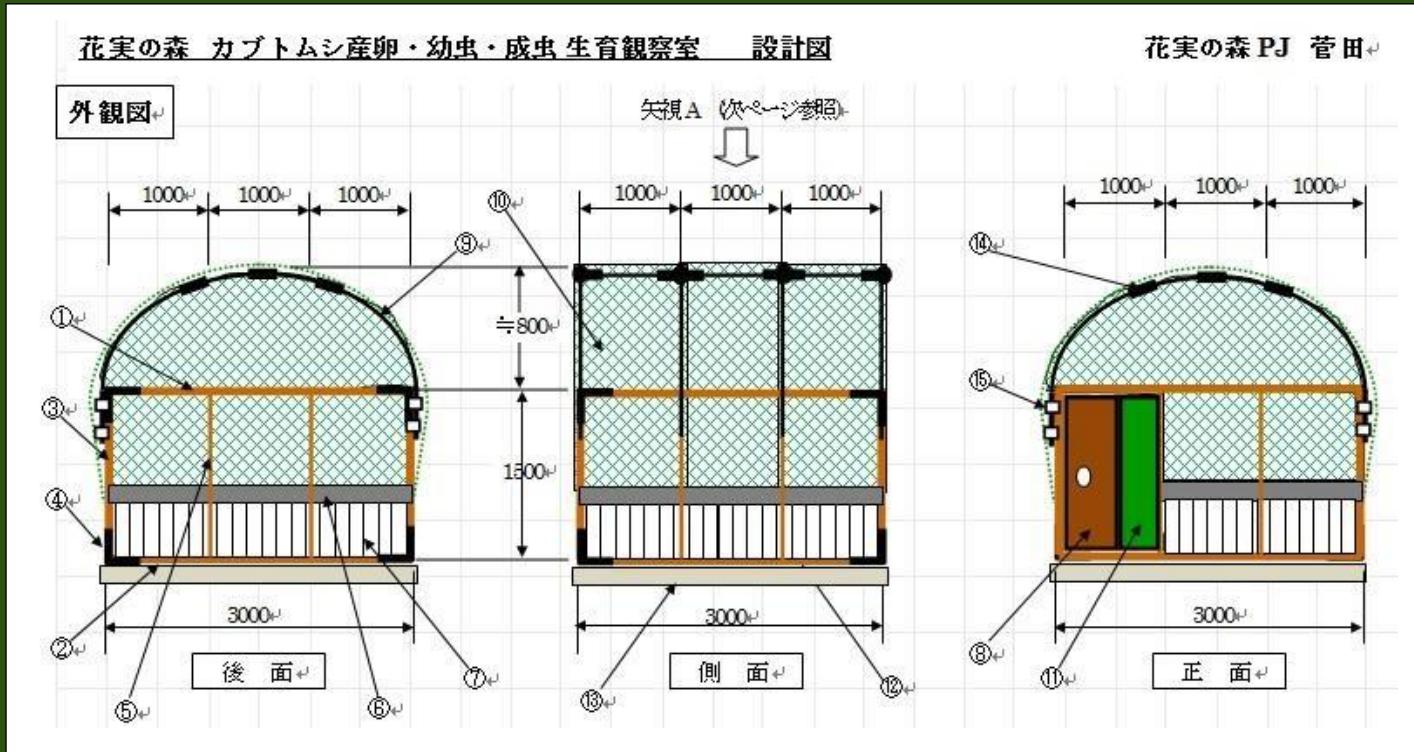
その後、木枠と金網を活用したタイプにもトライ。



いろいろなタイプの生育場所を作った。

成虫時期には飛び立ち（巣立ち？）に備えて防虫網の取り付けなどもやってみたが、足や角がからみ動けなくなったケースも確認。その後防虫網方式は撤回。

【観察小屋の構想・設計と建設】



まず、素人の我々が建設可能な方式、材料を調査・検討の結果、

100 mmのアルミ角パイプに90 mmの防腐角材をはめ込む方式を考え出し、その材料調達のめどがついたことからこの方式に決定させる。
アルミコーナーの部品設計と発注を経て準備完了。
部品調達後、あらかじめ倉庫前で仮組をやってから、林内所定の場所で建設することとした。



建設場所の整地、太い木の根に苦戦する場所もあり。







完成！

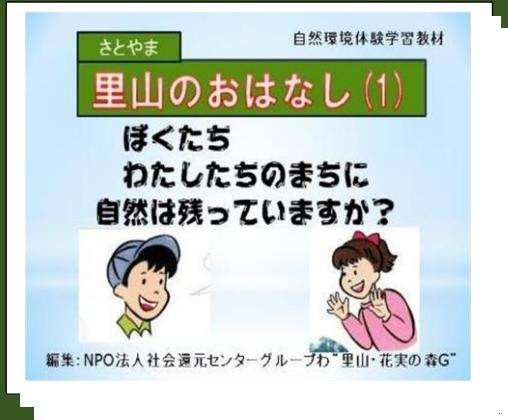


観察小屋の周辺に教材としたい樹の植樹も実施。 ムクロジ 2 本 タラヨウ 2 本

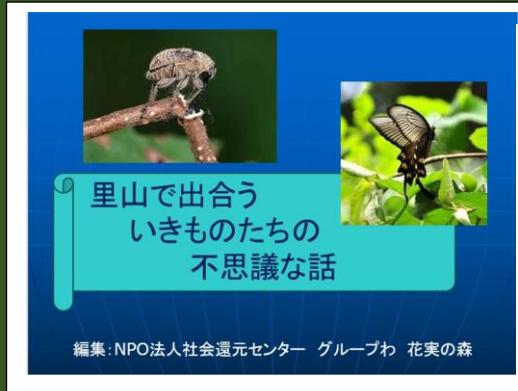


カブトムシ生育観察会時に、子どもたちに植樹してもらうための苗の管理も大切な作業のひとつ。

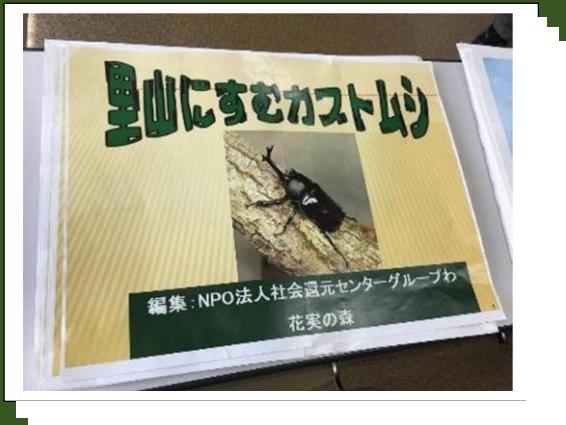
里山を説明するための紙芝居(4編)の作成も完了



紙芝居1 “里山の話①”



紙芝居2 “里山の話②”



紙芝居3 “カブトムシの話①”



紙芝居4 “カブトムシの話②”